

令和8年度採用

岐阜県公立学校教員採用選考試験 第1次選考試験

教科専門

中学校 国語

受験番号	
------	--

試験時間

10時30分～11時40分（70分）

【注意事項】

- 1 放送で指示があるまで、この問題用紙に手を触れないでください。
- 2 問題の印刷が不鮮明な場合には挙手をして、試験監督官が来るのを待ってください。
- 3 終了後、答案用紙（マークシート）のみ回収します。この問題用紙は各自持ち帰ってください。

□ 次の文章を読んで、後の(一)～(六)の問いに答えよ。

著作権保護の観点により、掲載いたしません。

著作権保護の観点により、掲載いたしません。

(出典 前本孝 著「こころの人類学―人間性の起源を探る」)

(一) 本文中の――A「別の視点から見れば」とあるが、「別の視点から見」た場合に**当てはまらない表現**を、次の①～⑤の中から一つ選べ。解答番号は□。

- ① 虚構の論理的世界の構築
- ② 人間と自然との乖離
- ③ 自己中心的な一方向への特殊化
- ④ 地球上への適応放散
- ⑤ 現代の地球環境問題

(二) 本文中の「ア」、「イ」に入る言葉の組合せとして最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選べ。解答番号は12。

- | | | |
|---|-------|-------|
| ① | ア 共生 | イ 共存 |
| ② | ア 利己 | イ 利他 |
| ③ | ア 善悪 | イ 正義 |
| ④ | ア 論理的 | イ 直感的 |
| ⑤ | ア 適応 | イ 不適応 |

(三) 本文中の——B「行動の内なる主体」とあるが、この表現の具体的な説明として最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選べ。解答番号は13。

- ① 適応と行動との関係を考えて、こころと自然との調和が認識されなければならなかったということ。
- ② 適応しながら進化してきた人間は、行動だけではなく、こころをも自然に適応させる必要があったということ。
- ③ ある行動には、そう行動すべきだと考えるこころの判断があるはずで、行動はその結果であるということ。
- ④ 適応しながら文化を発展させるためには、行動よりも、こころの開放を行わなければならなかったということ。
- ⑤ ある行動には、そうした行動を選択すべきだということの働きがあり、そこには乖離があるということ。

(四) 本文の文脈から考えた場合、——C「理性」に最も近い意味を持つ言葉として最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選べ。解答番号は14。

- ① 様々な社会の規範や生き方
- ② 虚空のような世界
- ③ 普遍的な世界の真実
- ④ 人間性の起源
- ⑤ いつくしみとしあわせ

(五) 本文中の——D「大切なのは、どんなに社会が複雑になろうとも、私たちは、このこの根源的な感覚を忘れてはいないことである。」とあるが、筆者がこのように考える理由として最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選べ。解答番号は15。

- ① 瞑想を通して様々な文化装置を作り出し、絶対的な存在を認識するため。
- ② いつくしみとしあわせの感覚を思い起こさせることで、個人と社会の存続をはかるため。
- ③ 認識による自己の正当化をおしすすめ、様々な文化装置を発展させるため。
- ④ 脳容量の増加によって理解力を高め、対象を弁別し世界を再統合するため。
- ⑤ 言語によって自然との関係を認識し、日常の中で人間として成長するため。

(六) 本文に書かれている内容として適切なものを、次の①～⑤の中から二つ選べ。解答番号は16。

- ① 現代の地球環境問題や紛争は、自己中心的ではあるが利他心の動作のくり返しの一種になる。
- ② 人類は人類自身を絶滅させうる危険な存在になったが、それでも他者へのいつくしみを忘れてはいない。
- ③ 自己中心的な一方向への特殊化の過程は、本来の人類のあり方から見れば誤った方向への進化である。
- ④ 人の生死の瞬間は虚空のような世界であるが、幻のような現実の中でも自他の区別はできる。
- ⑤ 結局のところ我々が作り出した世界観は、人間独自の認識に基づいた個別の認識にしかすぎない。

二 次の文章を読んで、後の(一)～(六)の問いに答えよ。

著作権保護の観点により、掲載いたしません。

著作権保護の観点により、掲載いたしません。

著作権保護の観点により、掲載いたしません。

(出典 伸木麻子 著「てんてこ舞いにラー油」)

(一) 本文中の――A「風の便り」とあるが、その意味を説明したものと最も適切なもの、次の①～⑤の中から一つ選べ。解答番号は17。

- ① どこからともなく伝わってくるうわさ
- ② 悪い評判や好ましくないうわさ
- ③ 世間に流れる根拠のないうわさ
- ④ 異性との関係があるといううわさ
- ⑤ 人の興味をそそるに十分なうわさ

(二) 本文中の——B「頭を抱え込みたくなる」とあるが、その原因として適切でないものを、次の①～⑤の中から一つ選べ。解答番号は18。

- ① 姑から嫌みを言われるかもしれないこと
- ② 加月ミレイの取材旅行に付き添うこと
- ③ 夫の体調管理をしてあげていないこと
- ④ 生ものの受け取りが済んでいないこと
- ⑤ 部屋の様子が混沌としていること

(三) 本文中の——C「薫子は怪訝に思いつつも」とあるが、薫子が怪訝に思った内容として最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選べ。解答番号は19。

- ① 薫子は、タベ玄関に下がっていたボトルの存在を忘れていたため、夫がラー油を使って料理を作ったと言ったことを、怪訝に思った。
- ② 薫子は、夫が使用したラー油が見た目は普通のラー油なのに、美味しいと言って食べていることを、怪訝に思った。
- ③ 薫子は、誰にもらったラー油なのかを忘れていたため、正体がよく分からないラー油をかけて食べることを、怪訝に思った。
- ④ 薫子は、たった一匙かけただけで市販のインスタントラーメンが美味しくなるといふラー油に入っているものを、怪訝に思った。
- ⑤ 薫子は、夫が出張から帰ってきて疲れているにも関わらず、自分のためにも料理を作ってくれたことを、怪訝に思った。

(四) 本文中の——D「食欲をそそるコントラスト」とあるが、この時の薫子は、どの感覚を刺激され、食欲をそそられたのか、最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選べ。解答番号は20。

- ① 視覚
- ② 味覚
- ③ 触覚
- ④ 嗅覚
- ⑤ 聴覚

(五) 本文中の――E「言葉が口を出るなり、薫子はひよいと腰を浮かしていた」とあるが、薫子がこのように変容したのはなぜか。その説明として最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選べ。解答番号は21。

- ① 薫子は、料理を作ることがとにかく嫌いだっただが、夫が料理が得意なことを思い出して、料理は夫に任せることもできることに気づき、気が楽になったから。
- ② 薫子は、仕事や家庭のこと、全てを完璧にこなさうと思っていたが、そうではなくて、完璧でなくてもよいということを夫との会話から教わった気がしたから。
- ③ 薫子は、朝からはほとんど食べておらず元気が出なかったが、夫が帰ってきたり料理を作ってくれたりしたことで、食事もでき気分が回復したから。
- ④ 薫子は、ラー油一つで様々な料理の可能性が広がることを思いつくと同時に、編集者として格調高い作品を世に送り出すヒントをもらえたような気がしたから。
- ⑤ 薫子は、ソファから起き上がることすら億劫に思っていたが、ラー油の美味しさに触発され、自然と自分から行動する気になったから。

(六) 本文中の――F「リビングの風景が突然、色彩を放ち始めた」とあるが、これは薫子のどのような心情を描写しているか。その説明として最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選べ。解答番号は22。

- ① 山積みになっていた家事をどこから手をつけてよいか分からなかったが、整理してみると単純な作業ばかりで、気分が軽やかになった様子を描写している。
- ② 計画的に、規則正しい生活を送ることが、健康的な生活につながる事が分かり、夫とも久しぶりに笑いあえたことで、気持ちが明るくなった様子を描写している。
- ③ 仕事や家事を上手にこなせず自己嫌悪に陥っていたが、些細なことがきっかけで前向きになり、生活が生き生きと感じられるようになった様子を描写している。
- ④ 仕事に忙殺され疲れ切っていて意識が朦朧としていたが、夫と会話したり食事をしたりしたことで、意識が明瞭になり視界が開けた様子を描写している。
- ⑤ リビングで一人ではほとんどの時間をソファで過ごしていて何かしようと焦ってばかりだったが、ある程度物事が片付いたことですっきりした様子を描写している。

三 次の文章は、『宇治拾遺物語』の一節である。これを読んで、後の(一)～(五)の問いに答えよ。

著作権保護の観点により、掲載いたしません。

著作権保護の観点により、掲載いたしません。

(出典 「宇治拾遺物語」)

(一) 本文中の「ア「べし」と「オ「べき」の意味の組合せとして最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選べ。解答番号は23。

- ① ア「命令」—— オ「適当」
- ② ア「意志」—— オ「命令」
- ③ ア「推量」—— オ「意志」
- ④ ア「命令」—— オ「可能」
- ⑤ ア「意志」—— オ「可能」

(二) 本文中の「イ「仰せ」と「エ「奉る」は、それぞれ誰に対するどのような敬意を表したのか。敬語の種類と敬意の対象の組合せとして最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選べ。解答番号は24。

- ① イ「謙讓語→不動尊」—— エ「尊敬語→相応和尚」
- ② イ「丁寧語→相応和尚」—— エ「尊敬語→宮」
- ③ イ「尊敬語→不動尊」—— エ「謙讓語→宮」
- ④ イ「尊敬語→相応和尚」—— エ「丁寧語→宮」
- ⑤ イ「尊敬語→不動尊」—— エ「謙讓語→相応和尚」

三) 本文中の――ウ「本意」の本文における意味として最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選べ。解答番号は25。

- ① 都卒の内院に参ること
- ② 法華経をそらんじること
- ③ 明王の頭に乘ること
- ④ 無事に出家できること
- ⑤ 不動尊を建立すること

四) 本文中の――カ「人々しわびて」とは、誰のどのような状態に対して出てきた表現か。最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選べ。解答番号は26。

- ① 粗末ななりをして杉の下駄をはいた相応和尚のみすぼらしい姿
- ② 寢殿の母屋で臥せっている後の宮の御簾の外に苦しげな声が漏れる様子
- ③ 熱心に祈禱を行う相応和尚が呼び出した不動明王の恐ろしい姿
- ④ 縁先で四、五尺放り上げて板敷に打ちつけられる後の宮の様子
- ⑤ 相応和尚をさげすんで殿中に上げなかつた御付きの人々の振舞い

五) この文章の内容として最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選べ。解答番号は27。

- ① 相応和尚は厳しい修行の末、法華経もそらんじることが出来たが、都卒天にのぼることを許されなかつた。
- ② 相応和尚は比良山の三滝に行き弥勒菩薩に願をかけ本懐を遂げた後で、比叡山無動寺に、等身大の不動尊を建立した。
- ③ 相応和尚は物の怪に苦しんでいた後の宮の寢殿に伺候した折、お付きの人々の対応にひどく憤慨し、殿中にのぼらなかつた。
- ④ 後の宮のお付きの人々は徳の高い行者として相応和尚を招きながら、一方でその身なりを卑しんだため、後に宮の怒りを買った。
- ⑤ 相応和尚は身分で人を判断し、人の本質を見ようとしないう浅薄さがあると、後の宮のお付きの人々から卑しまれた。

四 「中学校学習指導要領（平成二十九年告示）解説 国語編（平成二十九年七月 文部科学省）」に示されている内容について、次の(一)～(三)の問いに答えよ。

(一) 次は、「第二章 第一節 国語科の目標 二 学年の目標 (二)「思考力、判断力、表現力等」に関する目標」である。□A□～□D□に当てはまる語句を【語群】a～hから選択し、その組合せとして正しいものを、後の①～⑤の中から一つ選べ。解答番号は28。

第一学年	第二学年	第三学年
(二) 筋道立てて考える力や豊かに□A□を養い、日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを確かなものにすることができるようにする。	(二) □B□に考える力や□C□を養い、□D□における人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。	(二) □B□に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を養い、□D□における人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。

- 【語群】
- a 表現したり想像したりする力
 - b 感じたり想像したりする力
 - c 理解したり創造したりする力
 - d 共感したり想像したりする力
 - e 社会生活
 - f 実生活
 - g 批判的
 - h 論理的

- ① A a B h C c D d
- ② A a B g C c D d
- ③ A b B h C c D d
- ④ A b B g C c D d
- ⑤ A c B g C a D e

- (二) 次は、「第二章 国語科の目標及び内容 第二節 国語科の内容 三 (思考力、判断力、表現力等) の内容」に示された、「C 読むこと 『読むこと』の言語活動例」の一部である。□A□、□D□に当てはまる言語活動例を【語群】a～iから選択し、その組合せとして正しいものを、後の①～⑤の中から一つ選べ。解答番号は29。

「読むこと」の言語活動例

内容の(二)には、(二)の指導事項を指導する際の言語活動を例示している。

各学年のアには、主として説明的な文章を読んで理解したことや考えたことを表現する言語活動を例示している。

各学年のイには、文学的な文章を読んで考えたことなどを記録したり伝え合ったりする言語活動を例示している。

各学年のウには、主として本などから情報を得て活用する言語活動を例示している。

各学年の言語活動例は、次のとおりである。

なお、これらの言語活動は例示であるため、これらの全てを行わなければならないものではなく、これ以外の言語活動を取り上げることも考えられる。

第一学年	第二学年	第三学年
ア	ア □B□	ア
イ □A□	イ	イ □D□
ウ	ウ □C□	ウ

【語群】

- a 論説や報道などの文章を比較するなどして読み、理解したことや考えたことについて討論したり文章にまとめたりする活動。
- b 報告や解説などの文章を読み、理解したことや考えたことを説明したり文章にまとめたりする活動。
- c 説明や記録などの文章を読み、理解したことや考えたことを報告したり文章にまとめたりする活動。
- d 詩歌や小説などを読み、引用して解説したり、考えたことなどを伝え合ったりする活動。
- e 詩歌や小説などを読み、批評したり、考えたことなどを伝え合ったりする活動。
- f 小説や随筆などを読み、考えたことなどを記録したり伝え合ったりする活動。
- g 学校図書館などを利用し、多様な情報を得て、考えたことなどを報告したり資料にまとめたりする活動。
- h 実用的な文章を読み、実生活への生かし方を考える活動。
- i 本や新聞、インターネットなどから集めた情報を活用し、出典を明らかにしながら考えたことなどを説明したり提案したりする活動。

⑤ ④ ③ ② ①

A A A A A

f f e e d

B B B B B

a b b c a

C C C C C

h i i g h

D D D D D

d e d f e

三 「第四章 指導計画の作成と内容の取扱い 二 内容の取扱いについての配慮事項」の書写に関する事項の取扱いに示されている内容の組合せとして正しいものを、後の①～⑤の中から一つ選べ。解答番号は30。

- A 文字を正しく整えて美しく書くことができるようにするとともに、書写の能力を学習や生活に役立てる態度を育てるよう配慮すること。
- B 文字を正しく整えて速く書くことができるようにするとともに、書写の能力を学習や生活に役立てる態度を育てるよう配慮すること。
- C 毛筆を使用する書写の指導は各学年で行い、硬筆による書写の能力の基礎を養うよう指導すること。
- D 毛筆を使用する書写の指導は各学年で行い、硬筆による書写の能力の応用を養うよう指導すること。
- E 書写の指導に相当する授業時数は、第一学年では年間20単位時間程度、第二学年及び第三学年では年間10単位時間程度とすること。

- ① A・C
- ② B・C
- ③ A・D
- ④ B・E
- ⑤ D・E